

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

# NDL 書誌情報ニュースレター

2013年3号(通号26号)

## 目次

2013年4月から洋図書に RDA を適用します(2)	(外国資料課 整理係)	1
Web NDL Authorities の典拠データを用いた番組情報ネットワークアプリケーションの試作	(NHK 放送技術研究所 有安香子)	3
英国図書館における NDLSH 付与作業と Web NDL Authorities の活用	(収集・書誌調整課 大柴忠彦)	5
お知らせ:「書誌データ利活用説明会」を開催します	(収集・書誌調整課)	8
お知らせ:WorldCat を通じた JAPAN/MARC(S)データの提供を開始しました	(収集・書誌調整課)	9
お知らせ:雑誌記事索引データ項目一覧をホームページに掲載しました	(逐次刊行物・特別資料課)	10
お知らせ:件名作業指針の改訂版を公開しました	(収集・書誌調整課)	11
コラム:書誌データ利活用(1) —各種機能のご紹介	(収集・書誌調整課 書誌サービス係)	12
掲載情報紹介		16

## 2013年4月から洋図書にRDAを適用します(2)

国立国会図書館では、2013年4月1日から、外国刊行の洋図書等の目録規則として“[Resource Description and Access](#)” (RDA) の適用を開始しました。[本誌 2013年1号 \(通号 24号\)](#) では、“Anglo-American Cataloguing Rules, second edition” (AACR2) から RDA への主な改訂点と、当館における適用についてご紹介しましたが、今回は、実際に RDA を適用して目録を作成する中で問題となった点をいくつかご紹介します。

### 1. 転記の規則の変更

版表示、出版地、出版者などについて、AACR2 では、略語を使用するなど簡略化して記録していましたが、RDA では、資料にあるとおりに記録することになりました。また、責任表示については、AACR2 では省略するものとされていた称号（収録すべきものとして規定されている称号を除く）や所属機関も、RDA の本則ではそのまま記録することになっています。

しかし、現在の書誌フォーマットや OPAC 表示では、そのまま記録することにより、情報が見にくくなってしまうことがあります。

例えば、責任表示の場合、資料では著者名と所属機関の違いがフォントやレイアウトにより明確であっても、書誌データ上ではそれらの区別がつきにくくなる場合があります。そのため、当館では、重要な情報を損なわない範囲で省略することを認めている任意規定を採用し、責任表示の肩書きや所属機関は基本的に記録しないことにしました。

タイトル	<a href="#">Human resource management in the public sector /</a>
責任表示	edited by Ronald J. Burke, emeritus professor of organizational studies, Schulich School of Business, York University, Canada, Andrew J. Noblet, professor, Deakin University, Australia, Cary L. Cooper, CBE, distinguished professor of organizational psychology and health, Lancaster University, UK

図1 本則に基づき、資料のとおり転記した例

タイトル	<a href="#">Human resource management in the public sector /</a>
責任表示	edited by Ronald J. Burke, Andrew J. Noblet, Cary L. Cooper.

図2 任意規定に基づき、肩書き等を省略して転記した例

### 2. 資料の内容や形式の記録

AACR2 では、資料の内容や形式を、「一般資料表示」という一つの要素として記録していましたが、RDA においては、内容と形式とが整理され、Content Type、Media Type、Carrier Type という三つの要素として記録することになりました。これらの要素は、記述に使用すべき語句が規定されており、それらのうち、記述対象の資料に該当するすべて、もしくは資料中で優勢なものを記録することになっています。

当館で採用している MARC21 フォーマットでは、これらは 336 (Content Type)、337 (Media Type)、338 (Carrier Type) という三つのフィールドに記録します。図3はDVDの付録がある絵本の例ですが、336のうち、上の二つは絵本の内容、三つめはDVDの内容についての記録です。337と338は、一つめが絵本、二つめがDVDについての記録で、それぞれ再生方法と媒体を表しています。

336	a text  2 rdacontent
336	a still image  2 rdacontent
336	a two-dimensional moving image  2 rdacontent
337	a unmediated  2 rdamedia
337	a video  2 rdamedia
338	a volume  2 rdacarrier
338	a videodisc  2 rdacarrier

図3 DVDの付録がある絵本の例

これらのうち、Content Type については、当館では、すべてを記録するのではなく、RDA の別法に従って、主要と判断したもののみを記録することとしています。例えば、図版の豊富な資料のうち、絵本と漫画の Content Type には、text だけでなく still image も記録することとしましたが、これら以外の図版が豊富な資料に still image と記録するかどうかは、目録作成者の判断に委ねています。

### 3. 「関連」の記録

当館の書誌データにおいては、アクセスポイントの関連指示子を不採用としている他、関連する資料（異版など）も今までどおり注記フィールドに記録しています。「関連」に関しては AACR2 との違いが大きい部分ですが、システム上の制約等により、残念ながら実現できていません。

RDA は [FRBR \(Functional Requirements for Bibliographic Records : 書誌レコードの機能要件\)](#) に基づいて作成されていますが、この特性を生かしたデータベースを構築するには、MARC フォーマットやそれに対応したシステムでは限界があると考えられます。すでに米国議会図書館 (LC) では、MARC フォーマットに代わる新たなフォーマットのための書誌データモデル (BIBFRAME) が検討されています。当館においても、より使いやすく探しやすいデータベースにしていくために、今後、どのようなフォーマットやシステムを選択していくのが重要な課題となります。

(外国資料課 整理係)

## Web NDL Authorities の典拠データを用いた番組情報ネットワークアプリケーションの試作

有安 香子 (NHK 放送技術研究所)

### 1. はじめに

NHK 放送技術研究所 (NHK 技研) では、デジタル化が進み、放送をとりまく環境が大きく変わる中で、放送サービスの将来像を提案し、これを実現するための研究開発に取り組んでいます。例えば、放送と通信を組み合わせることで、見逃した番組を VOD (ビデオ・オン・デマンド) サービスで観るなどの可能性が広がりますが、毎日放送される膨大な量の番組から観たい番組を見つけることは容易ではありません。こうした問題を解決するために、NHK 技研ではこれまでに、放送局の中に集積されたデータを使い、番組内容の類似度を元にした番組推薦手法の提案をしてきました[1]。この度、放送局のデータだけでなく、インターネット上に公開されている国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス ([Web NDL Authorities](#)) の典拠データを使うことで、番組同士の関係性をわかりやすく表示し、視聴者が観たい番組を見つける手助けとなるような「番組情報ネットワークアプリケーション」を試作したのでご紹介します。

### 2. 番組情報ネットワークアプリケーションの試作

情報番組や教養番組など、ある番組をきっかけにさまざまな話題に興味や関心が広がる番組に関して、番組同士の意味的な内容のつながりを上手に表現するアプリケーションを試作しました。具体的には、Web NDL Authorities から提供されている国立国会図書館件名標目表 (NDSLH) の典拠データを活用しています。NDSLH の上下概念や関連語として得られる典拠データ同士の意味的なつながりをもとに「語彙グラフ」を作成し、作成したグラフに番組内容をマッピングすることで、番組情報ネットワークを作りました。語彙グラフにマッピングする番組内容を表すデータとして、デジタル放送で使われる EPG ( Electronic Program Guide ) の「番組タイトル」「サブタイトル」「出演者」データを使用しました。



図1 番組情報ネットワークアプリケーションの画面例

図1はタブレット端末向けに試作した番組情報ネットワークアプリケーションの画面例です。ほうれん草の活用術を題材とした番組（画面中A 2013/01/29放送）の「葉酸が認知症に効果的だ」という番組内容から、「葉酸（画面中B）」と「認知症（画面中C）」の語彙がリンク付けられています。更に「DHAが認知症と脳梗塞に効果的だ」という内容の番組（画面中D 2011/11/22放送）から「脳梗塞（画面E）」の語彙がリンクづけられ、脳梗塞を扱った番組（画面F 2013/03/04放送）へとつながっています。このようにWeb NDL Authoritiesの典拠データそのものと、その関係性を視覚的に表現することで、番組同士の内容のつながりを直感的に理解しやすくし、視聴者の興味や関心に沿った、新たな番組の発見に役立つ情報を提示できます。

今後は、扱う語彙数や番組数を増やすことを前提とし、使いやすく理解しやすい情報の表現方法を提案するとともに、実際のサービスとして提供するためのシステム設計などの改良を加える予定です。

有安 香子

(ありやす きょうこ NHK放送技術研究所)

[1] 有安香子ほか. ソーシャルテレビに関する一提案 - 番組コメント解析に基づいたコンテンツ推薦 -. 電子情報通信学会 HCG symposium 2009. A8-4.

## 英国図書館における NDLSH 付与作業と Web NDL Authorities の活用

### 【はじめに】

2013年6月24日、英国図書館 (BL) のヘイミッシュ・トッド氏 (Mr. Hamish Todd、日本・韓国研究部門主任キュレーター) および大塚靖代氏 (日本研究部門キュレーター) が来館し、当館収集書誌部収集・書誌調整課の職員と懇談を行いました。

懇談のテーマは二つです。一つは、当館の目録作業システムにおける日本語対応についてです。BL では当館と同じ図書館統合システムを導入しており、日本語入力方法の参考にしたいということで、当館の目録作業システムにおける日本語対応のためのカスタマイズについて説明しました。

もう一つのテーマは、国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) と米国議会図書館件名標目表 (LCSH) との連携についてです。当館では、2004年のNDLSH改訂以来、個々のNDLSHに対応するLCSHを記録しており、また、国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス ([Web NDL Authorities](#)) では、NDLSH から LCSH へのリンクを提供しています。

The image shows two screenshots. The left screenshot is from 'Web NDL Authorities' (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) and displays details for the term '嫁と姑' (In-laws and daughters-in-law). The '関連リンク' (Related Links) section shows a link to 'sh2007009516 (LCSH)'. A callout box labeled 'LCSH へリンク' points to this link. The right screenshot is from the 'Library of Congress Subject Headings' website, showing the details for 'Mothers-in-law and daughters-in-law'. A callout box labeled '対応する LCSH' points to the title in the left screenshot. A large arrow points from the left screenshot to the right one, indicating the link.

図1 NDLSH から LCSH へのリンク例

懇談において当館からこのNDLSHとLCSHとの連携を説明する中で、BLにおける日本語資料の目録へのNDLSH付与やWeb NDL Authorities活用についてお話を伺うことができました。本稿ではその概要を報告します。

## 【BLにおけるNDLSH付与作業とWeb NDL Authoritiesの活用（トッド氏、大塚氏談）】

BLの目録作成にあたっては「BL Standard」と呼んでいる基準があり、この基準に則して件名標目にはLCSHを適用しています。日本語資料の目録作成は日本研究部門で行っていますが、日本語資料の目録にはLCSHだけでなくNDLSHも併せて付与しています。BLの日本研究部門では、NDLSHは日本に関する主題をよりの確に表現できる件名標目だと考えているからです。

また、日本十進分類法新訂9版（NDC9版）の分類記号も付与しています。NDCについては、現在、特に何かに利用しているわけではないのですが、ひょっとしたら将来的に何らかの利用可能性があるかもしれないと考えているからです。

そして、これらLCSH、NDLSH、NDCの付与作業において、国立国会図書館が提供しているWeb NDL Authoritiesを大いに活用しています。Web NDL Authoritiesでは、NDLSHからLCSHへのリンクがあるので、両方の件名標目を付与する際にはとても参考になります。また、個々のNDLSHには対応するNDCの記号が入力されていますので、こちらも役立っています。

BLの日本語資料の整理では、主に、OCLCや国立情報学研究所（NII）の書誌データを利用してコピー・カタログニングを行っています。コピー元のデータには基本件名標目表（BSH）の件名標目が付与されていますが、NDLSHに置き換えています。BSHはNDLSHよりも構造的に単純で語彙も少なく、的確な主題表現ができない場合があるからです。また、コピー・カタログニングによらず、オリジナルで日本語資料の目録を作成することも少なくありません。いずれの場合でも、Web NDL Authoritiesを参考にしています。

BLではMARC21フォーマットを採用しています。LCSHをフィールド650（件名標目を記録する正規のフィールド）に入力し、それに対応するNDLSHの標目形をフィールド880（正規のフィールドに入力したデータの、他の字形による表現を記録するフィールド）に入力しています。フィールド880のこの使い方はイレギュラーなものですが、どうしてもNDLSHを記録したいのでBL内で相談し、このような形にしています。件名標目の細目はMARC21フォーマットではサブフィールドで区切って記録しますが、フィールド880へNDLSHを記録する場合は、細目はサブフィールドで区切らずに入力しています。

040	a Uk  b eng  c Uk	
042	a ukblsr	
042	a pcc	
043	a a-ja---	
050 4	a B5241  b .A53 2010	
084	a <u>121.6</u>  2 njb/9	*NDC 9 版分類記号
1001	a Andō, Reiji,  d 1967-  6 880-01	
24510	6 880-02  a Basho to musubi :  b kindai Nihon shisōshi /  c Andō Reiji.	
260	6 880-03  a Tōkyō :  b Kōdansha,  c 2010.	
300	a 288 p. :  b ill. ;  c 20 cm.	
504	a Includes bibliographical references.	
650 0	a Philosophy, Japanese  y 19th century.	*LCSH
650 0	a Philosophy, Japanese  y 20th century.	
8801	6 100-01  a 安藤礼二,  d 1967-	
88010	6 245-02  a 場所と産霊 :  b 近代日本思想史 /  c 安藤礼二.	
880	6 260-03  a 東京 :  b 講談社,  c 2010.	
88007	6 650-00  a <u>日本思想 -- 歴史 -- 明治以後</u>  2 ndlsh	*NDLSH
SID	a Z39  b OCLC	
85241	a British Library  b OC  j JPN.2011.a.138	

図2 BL オンライン目録における日本語資料の書誌データ例

BL のオンライン目録では、NDLSH は「Subject」の項目ではなく、全項目検索において検索対象となっています。入力した NDLSH は、一般利用者の検索のためというよりも、BL のスタッフが日本研究に関するレファレンス・ワークのために活用しています。

LCSH に加えて NDLSH を付与することは、確かに手間のかかることですが、日本研究を支える充実した目録を作成するためにも必要なことだと考えて作業を行っています。国立国会図書館には、これからも NDLSH と LCSH との連携を継続し、また、NDLSH や Web NDL Authorities をより充実させていくことを希望します。今後も大いに活用したいと思います。

### 【おわりに】

BL において NDLSH を付与し、また、Web NDL Authorities を活用していただいていることを嬉しく思うとともに、とても興味深いお話を伺えたことについて、トッド氏および大塚氏には改めて感謝いたします。

懇談の中で、「日本関係の主題に対応する NDLSH はあっても、LCSH がないことが稀にあります。このような場合、どのように対応すべきか、何かアドバイスをいただけますか？」と大塚氏から質問を受けました。「LC の [SACO \(Subject Authority Cooperative Program\)](#)、米国議会図書館が行っている件名典拠の共同作成プログラム) に LCSH 新設のリクエストをしてみるとよいと思います。」と答えたところ、「確かにそのとおりですね。帰国したら BL 内で確認してみましょう。」とのお返事でした。

当館では他機関からのリクエストによる NDLSH 新設は行っていません。NDLSH をより充実したものに、という要望に応えるための方法として考えてみたいところです。

大柴 忠彦

(おおしば ただひこ 収集・書誌調整課)

## お知らせ:「書誌データ利活用説明会」を開催します

2012年1月から新しい全国書誌提供サービスが開始され、各図書館システムにおける全国書誌データの取込機能(NDLサーチのAPI利用、MARC形式ファイルの取り込み機能等)の実装が進みつつあります。全国書誌データの利活用を推進するため、より多くの図書館システムに同機能が実装されることを目的とし、おもに図書館システムを扱うベンダーを対象に、各種図書館における全国書誌データの利活用事例および当館の全国書誌データ提供の仕組みを具体的に紹介する「書誌データ利活用説明会」を開催します。ベンダーの方以外にも、図書館のシステム担当者、全国書誌データの利活用に関心のある方のご参加もお待ちしています。

### <説明会の概要>

- 日時 2013年11月1日(金) 午後1時30分から午後3時30分(午後1時から受付開始)
- 会場 国立国会図書館 東京本館 新館3F大会議室
- 内容
  - ・国立国会図書館が提供する全国書誌提供サービスの概要
  - ・全国書誌データの利活用事例紹介 — 公共図書館、学校図書館、専門図書館からの報告
  - ・全国書誌の利活用方法: システム実装のために

参加をご希望の方は、下記のページで申込み方法をご確認の上、2013年10月25日(金)までにお申し込みください。

<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20131101briefing.html>

お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課 書誌調整係  
電話: 03-3581-2331 (内線24550)

(収集・書誌調整課)

## お知らせ:WorldCat を通じた JAPAN/MARC(S)データの提供を開始しました

国立国会図書館は、OCLC の [WorldCat](#) を通じて JAPAN/MARC(M)データ (単行資料の全国書誌データ) の提供[1] を 2010 年 11 月 9 日から行っています。2013 年 7 月 11 日からは、JAPAN/MARC(S)データ (逐次刊行資料の全国書誌データ、約 15 万件) の提供も開始しました。

これにより、すべての全国書誌データを WorldCat でご利用いただくことができます。ただし、これまでどおり WorldCat を通じた図書館間貸出には対応しません。

(収集・書誌調整課)

[1]国立国会図書館. “OCLC を通じた国立国会図書館作成書誌データ (JAPAN/MARC)の国際的提供について”.  
[http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/oclc\\_agreement.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/oclc_agreement.html), (参照 2013-08-06).

## お知らせ:雑誌記事索引データ項目一覧をホームページに掲載しました

2012年1月から、[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#) で検索した雑誌記事索引データを1件ずつあるいは複数件まとめて、MARC形式など複数の形式でダウンロードできるようになりました。

2013年7月、[雑誌記事索引データ項目一覧](#) (平成25年7月12日付) をホームページに掲載しました。雑誌記事索引を構成するデータ項目について、フィールドごとにデータ内容を説明しています。

ダウンロードした雑誌記事索引データを加工して利用する場合などにお役立てください。

(逐次刊行物・特別資料課)

## お知らせ:件名作業指針の改訂版を公開しました

国立国会図書館では、件名標目付与作業、件名典拠作業の際に用いる当館マニュアルである「件名作業指針」をホームページで公開しています。

このたび、改訂した「[件名作業指針 \(2013年7月現在\)](#) [PDF File 745KB]」を公開いたしました。「[国立国会図書館件名標目表 細目一覧 \(2013年7月現在\)](#) [PDF File 337KB]」と併せてご利用ください。

(収集・書誌調整課)

## コラム:書誌データ利活用(1) —各種機能のご紹介

国立国会図書館 (NDL) では、作成した書誌データの利活用のために様々な取組みを行っています。NDL の役割の一つとして、全国書誌を作成し提供することがあります。全国書誌とは、NDL が収集整理した国内出版物と外国刊行日本語出版物について、標準的な書誌情報を広く国の内外に速報するものです。全国書誌データを利活用していただけるよう、当館では様々な機能を用意しています。

本稿では、全国書誌データを取得するための各種機能の概要について、ご紹介します。

### 1. 全国書誌データの提供

NDL は、作成した全国書誌データを、様々な方法やタイミングで提供しています (図1参照)。国立国会図書館蔵書検索・申込システム (NDL-OPAC) からは、作成後に即時提供し、国立国会図書館サーチ (NDL サーチ) からは、NDL-OPAC での提供からおおむね2日後に公開しています。

また、全国書誌データは、地図資料およびアジア言語資料を除き、書誌データが完成する前に、新着書誌情報として提供しています。

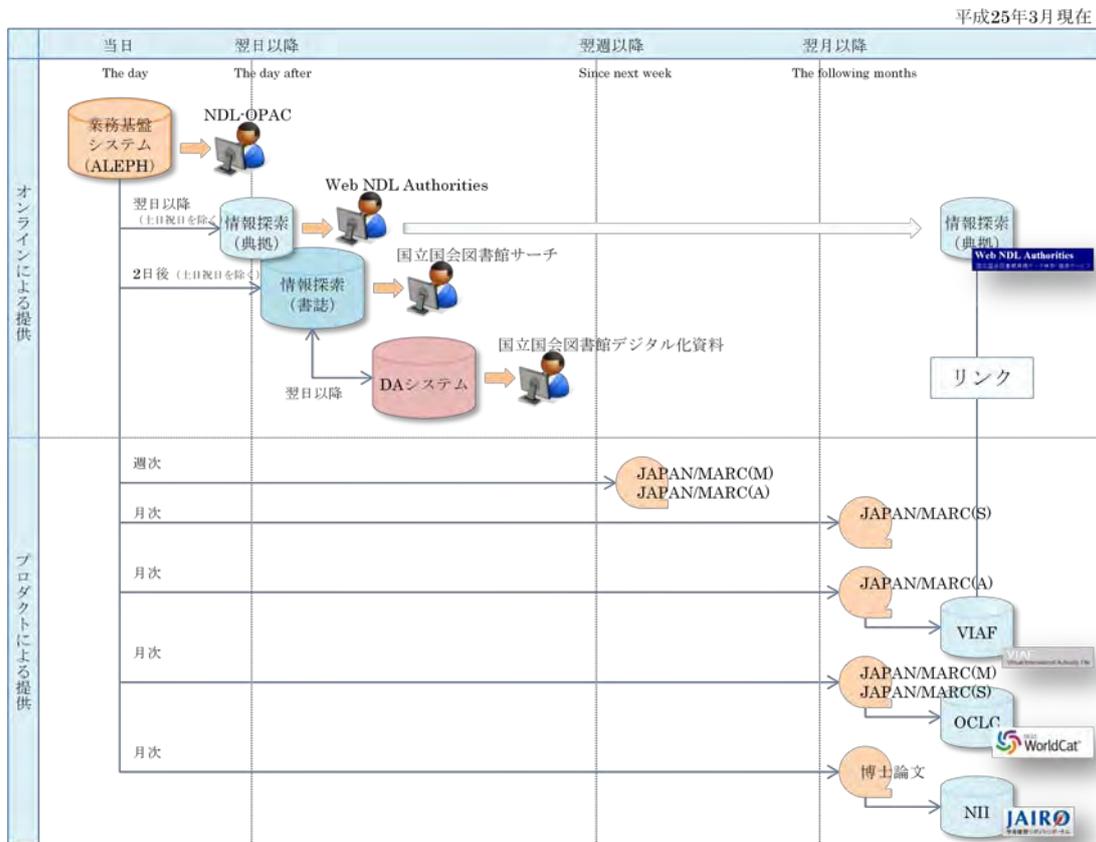


図1 国立国会図書館作成書誌データの提供フロー

## 2. NDL サーチ

[NDL サーチ](#) (図 2 参照) は、国内の各機関が持つ豊富な「知」を活用するためのアクセスポイントとなることを目指して開発された検索サービスです。NDL が所蔵する図書館資料のほかに、デジタル資料やレファレンス情報、さらに他機関の資料を検索することができます。



図 2 簡易検索画面

NDL サーチから当館書誌データを取得する方法は、外部提供インターフェース (API) と RSS 配信の二つがあります。

一つ目の API には、検索用 API とハーベスト用 API があります。どちらも他の図書館システムなどから機械連携で全国書誌データを含む当館書誌データを利用することができます。詳しくは、NDL サーチの「[外部提供インターフェース \(API\)](#)」ページをご覧ください。

二つ目の RSS 配信では、あらかじめ RSS リーダーなどに登録しておくことで、全国書誌データの最新の情報を入手することができます。機能の概要については、[本誌 2013 年 1 号\(通号 24 号\)](#)で紹介しています。

## 3. NDL-OPAC

[NDL-OPAC](#) は NDL の蔵書目録ですが、全国書誌データを提供するためのツールでもあります。全国書誌提供サービス画面 (図 3 参照) で、資料の区分 (「図書」「非図書」「逐次刊行物」「全て」) と日付 (1 日単位) を決めて、全国書誌データの集合を作成し、書誌データをダウンロードできます。また、検索結果一覧画面や書誌情報画面からも書誌データをダウンロードできます。

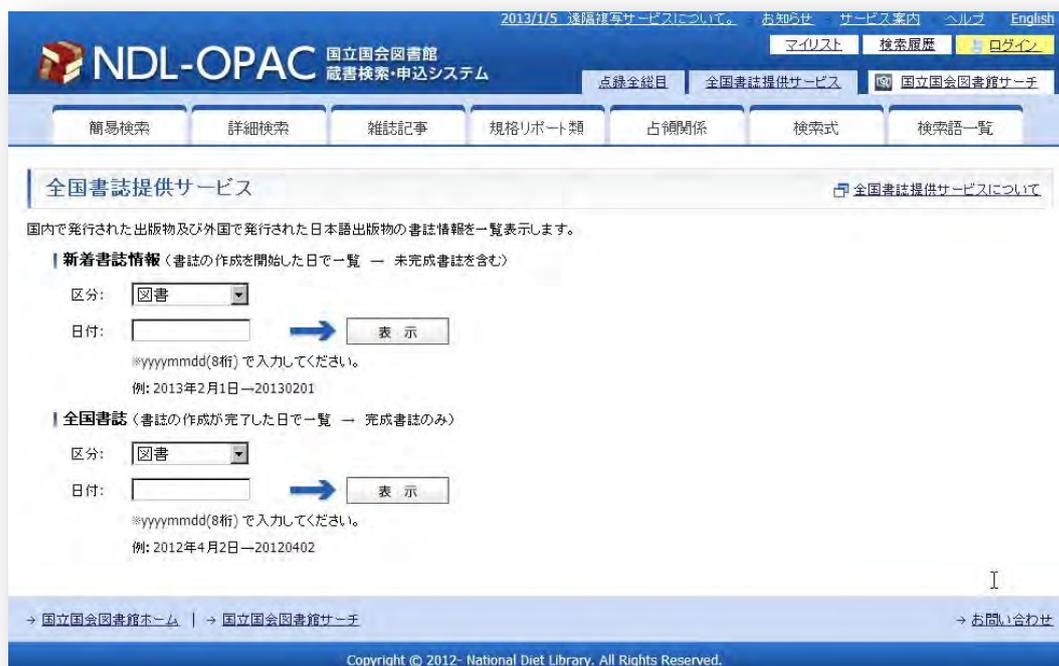


図3 全国書誌提供サービス画面

ダウンロードするファイルは、エンコード (Unicode / UTF-8 または SHIFT-JIS) とファイル形式 (標準形式、MARC 形式、引用形式、記号区切り形式など) を選択できます。ファイル形式で「MARC 形式」を選んだ場合は、JAPAN/MARC MARC21 フォーマットでダウンロードされます。必要に応じて、Web 変換サービスを用いダウンロードしたファイルを JAPAN/MARC 2009 フォーマットに変換することも可能です[1]。

#### 4. Web NDL Authorities

国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス ([Web NDL Authorities](#)) は、NDL が作成し維持管理している典拠データを提供するツールです (図4 参照)。キーワード検索または分類記号検索を行って典拠データを検索し、その詳細情報画面から著者名または件名で NDL サーチを検索することにより、典拠データを活用した全国書誌データの検索ができます。

また、典拠データを [RDF 形式](#) でダウンロードしたり、[SPARQL](#) を用いて外部から検索したりできます。

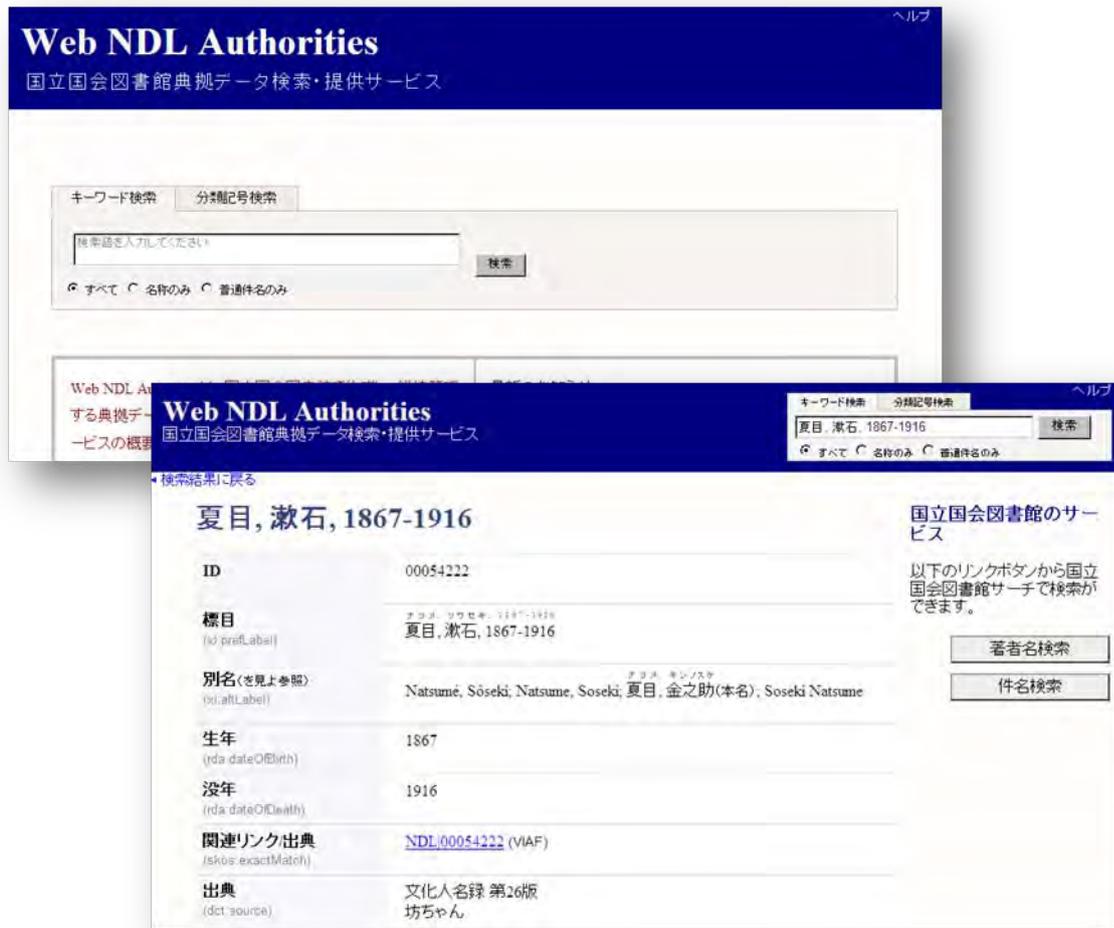


図4 トップページと詳細情報

## 5. おわりに

今回のコラムでは、全国書誌データを利用するための機能を簡単にご紹介しました。次回は、具体的な事例をもとに、API の利用方法や JAPAN/MARC MARC21 フォーマットの取込方法など、書誌データの利活用をさらに詳しく紹介しますので、ご期待ください。

また、全国書誌データの利用についてのご案内をホームページに掲載していますので、こちらをご覧ください。

- [書誌情報提供サービス](#)

(収集・書誌調整課 書誌サービス係)

[1] 「NDL-OPAC からの書誌データダウンロード利用ガイド」をホームページに掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/syoshiservice.html#OPAC> (参照 2013-8-13)

## 掲載情報紹介

2013年6月26日～2013年9月25日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・[Unicode 外の文字リストを更新しました。](#)

(掲載日：8月15日)

- ・[「国立国会図書館件名作業指針\(2013年7月\)」を掲載し、「分類・件名\(NDLC、NDLSHなど\)」を更新しました。](#)

(掲載日：8月14日)

- ・[「雑誌記事索引データ項目一覧」を掲載しました。](#)

(掲載日：7月18日)

- ・[「書誌データ Q&A」を更新しました。](#)

(掲載日：6月26日)

**NDL 書誌情報ニューズレター (年4回刊)**

2013年3号 (通号 26号) 2013年9月26日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

E-mail: [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp) (ニューズレター編集担当)